

## 編集後記

この所報は、今年度で51号となりました。19年度には、大村市内の見晴らしの良い丘陵地に移転し、新しく整備された施設において研究所の活動が始まります。このような重大な転機を迎えている折に、改めて昔の所報を覗いてみました。

昭和30年(1955)度版第1号での「巻頭辞」及び昭和49年度版第13号での「まえがき」を抜粋します。

●第1号 巻頭辞 昭和30年3月31日 長崎県衛生研究所長 一瀬 忠行

(略) 旧細菌検査所の狭い建物に昭和27年12月衛生研究所として、組織を拡充し、より高度の試験検査機関として発足したのであります。その後検査室、並びに人員設備の充実に鋭意努めて参ったのでありますが、原爆被災たる本県はあらゆる点でさまざまな困難に逢着し、検査室の新築が完成したのは、ようやく一昨年10月のことであります。爾来検査技術面に、或は調査研究面に所員一同努力を傾け、ここに平素の研究業績の一斑を窺めて、発表する運びになった次第であります。(略)

●第13号 まえがき 昭和49年12月25日 所長 高橋 庄四郎

(略) 当所は昨48年10月15日に、長崎県衛生公害研究所と改称され、同時に1課2部5科制に改組されました。(略)

さて近年に至って、公害研究所・公害センター等の独立機関を設置していない地方自治体は少数となりましたが、表裏の関係にある保健衛生・環境保全に対処するには、衛生系・公害系の両研究機構が同一機関内に組織されている方が合理的と解される一面もあり、また他にも理由がありまして、本県では当分の間、衛公研としての形態が続けられるものと考えています。(略)

諸先輩の足跡にも思いを巡らせながら、今後さらに、充実した新しい所報(実績報告書)が積み重なって行くことを期待して、今年度の編集委員会を解散します。

平成18年11月

編集委員長 村上 正文

### 編集委員

委員長	村上 正文	(衛生研究部)	副委員長	八並 誠	(公害研究部)
委員	釜谷 剛	(企画情報課)	八並 誠	(大気科)	山口 仁士 (水質科)
	川口 喜之	(衛生化学科)	原 健志	(衛生微生物科)	

---

### 長崎県衛生公害研究所報第51号

(平成17年度業績集)

平成18年11月 印刷・発行

編集・発行 長崎県衛生公害研究所

(〒852-8061) 長崎市滑石1丁目9番5号

TEL 095-856-8613 FAX 095-857-3421

**NAGASAKI-KEN EISEI KOGAI KENKYUSHO**

**9-5、NAMESHI 1-CHOME、NAGASAKI、JAPAN(PC852-8061)**

---

(再生紙を使用しています)